

平成29年度 第1回 明石市子ども・子育て会議 議事録

日 時：平成29年7月9日（日）14：00～16：00

場 所：パピオスあかし6階 こども健康センター内会議室

1 会議次第

- 1 開会
- 2 委員の交代について
- 3 議事
 - (1) 子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しについて
- 4 その他
- 5 閉会

2 出席者

委員

伊藤会長	森田副会長	大川委員	田中委員	中澤委員	葭岡委員
富田委員	神尾委員	松本委員	櫻井委員	山下委員	今井委員
山端委員	三木委員	近藤委員	多胡委員	竹内委員	高岸委員

関係部署

福祉局

佐野こども総合支援部長 水野子育て支援課長
永富子育て支援室長 井上こども広場担当課長
鈴木利用担当課長 加藤施設担当課長
藤城待機児童緊急対策室長 原田待機児童緊急対策室課長
和歌発達支援課長 春田こども健康課長

教育委員会

池田児童クラブ担当課長

事務局

前田こども育成部長 小川こども育成室長 山本運営担当課長
福本主幹兼保育担当係長 澤田主幹兼幼児教育担当係長 道本主任 金井主任

3 議事内容

1 開会

(あいさつ)

(会議成立の報告及び資料確認)

2 委員の交代について

3 議事

- (1) 子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しについて

会 長：それでは、次第の3番目の議事に移る。

議題は1点で『子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しについて』。明石市子ども・子育て支援事業計画は、本会でも委員の皆さんからご意見をいただきながら、平成27年3月に策定されたものである。

平成27年度から平成31年度までの5年間を事業期間とする計画で、教育や保育、地域子ども・子育て支援事業の「量の見込み」やそれに対する「確保方策」について定められている。

そして、計画内容と実態に大きな隔たりが生じた場合は、計画の中間年である平成29年度に見直しを行うこととされており、計画の見直しに当たっては、本会の意見を聴くこととなっていることから、本日の議題となっている。

それでは、事務局から説明をお願いしたいと思うが、関連があるので資料2から4までを順次一度に説明をお願いしたい。

(関係部署より説明)

会 長：ただいま、説明いただいた、資料2から資料4について、ご意見やご質問があればお願いします。

委 員：すべての子どもが質の高い保育を受けられる環境整備が求められている。

3人の子どもが保育所のお世話になったが、ベテランの核になる先生がいて、私たち夫婦も相談を聞いてもらったりして、子育ての手助けになった。そういう先生や学童指導員が育つような、ゆとりを持って、安心して長く働ける環境が必要。人を育てるのは人。そのあたりをどう考えているのか。また、先生や学童指導員の処遇改善はどうなっているのか。

関係部署：待機児童緊急対策のなかで保育の質の確保に向けて様々な取り組みをしている。特に民間の保育所で働く保育士への安定的な待遇の改善として市は給与の増加に対しての補助や採用一時金などで支援している。保育士確保が難しいなか、バスツアーや就職フェアを行い、明石市の保育所に勤めてもらえる体制を作っている。また、質の高い保育を行うため、公立の保育所の公開保育に民間保育所の保育士も参加して行う交流研修の開催や若手保育士や園長に対する研修の充実を図っている。

関係部署：放課後児童クラブの指導員については2年連続時給の引き上げを行い、他市よりも高水準。各児童クラブに核となる主任指導員を順次配置する予定である。

委員：保育の質について、ありがたい質問をいただいたので、保育現場の現状をお話しさせてもらう。

朝日新聞の1面に報道されたとおり、明石市は日本で6番目に待機児童が多く、世田谷区や大田区に並び、住みたいまち、子どもを育てたいまちに選ばれている。このとんでもない数の待機児童を解消しようと行政は保育士の待遇を上げることや研修の充実など、現場でやるべきことはかなり一生懸命してくれている。ただ、保育の質の現状は極端に言えば下がっている。保育士不足のなか、待機児童に対応するとなると、早出・遅出が速いピッチで回ってきて保育士の疲れにつながる。少ない人数で子どもを預かるとなると、十分ではない部分が少し出てくる。市としては一生懸命やってくれているが、民間の保育園では厳しい現状がある。

待機児童が多い問題は全国的に起きている現象で、これをクリアすべく、国レベル・地方自治体レベルでも起きていることはそれに対するパッチワークのような状況で、保育士が足りないなら待遇を上げよう、若い保育士が集まらないなら研修をしよう、となるが人数が不足するなか研修に行かせられない保育所が現実的にたくさんある。

明石市は株式会社を保育参入させないという明確なスタンスを取ってきたが、全国の動向もあり、ゆらいでいるのではないか。企業内保育や小規模保育は保育や教育というよりも預かりサービスを増やすための方向。そうせざるを得ない状況かもしれないが、NPOなどの保育の経験があるところが社会福祉法人の資格を取ってやるならいいが、そうではないところの法人が増えているのが現状。資格を持った園長と保育士を雇えば保育所はできるがそんな簡単なものではない。昔は保育観や教育観があって子どもを預かっていたはず。そう言ってもいられない現状が明石にはあり、住みやすい、すばらしいまちであったとしてもギャップの大きい状況が生まれている。そここのところが最終的には保育の質にまで及んでいる。現状としては市も頑張ってくれているが、現場の保育士はかなりタイト。

会長：貴重な情報をありがとうございます。意見としての発言で質問はありませんね。

委員：人不足に対していろいろな施策を打っているが、保育士を辞めていった方、俗に言う潜在保育士に対するアプローチは考えてないのですか。

関係部署：保育士フェアやバスツアーをしても参加するのは卒業予定の学生がほとんどである。保育士が不足するなかで潜在保育士はたくさんいて、市としても潜在保育士の確保にこれから力を入れたい。潜在保育士の復職支援事業を近々実施したいと考えている。

委員：児童クラブの実績と見直し案のところでは気になっているところがある。専用施設の整備を市はやってくれているが、それでもまだ施設が足りないというところで、例えば谷八木小学校。平成29年度、学校の余裕教室等の活用による整備となっているが、校長先生からは、児童数が増えてきていて教室が足りないと聞いている。本当に余裕教室は使えるのか、疑問がある。谷八木小学校に限らず現状を調べてもらえたらと思う。

関係部署：この事業計画の見直しのところに谷八木小学校については学校の余裕教室等の活用による整備と記載しているが、学校によってはすでに余裕教室が活用できないところがある。そういうところは運動場にプレハブを設置していくしかない。谷八木小学校に関してはすでに余裕教室がないので、現在運動場にプレハブの整

備をできないかと関係課と協議中である。

委員：児童クラブについての意見を述べさせていただきたいのですが、資料3の7ページの(7)特別な支援が必要な子どもの推移ということで平成22年度と比べると倍増していて、当然児童クラブにも障害を持っている児童の入所が年々増えていると思う。それも、見えてる障害ではなく発達障害などの見えない障害の児童が増えていると思うが、指導員のスキルが追いついていない現状があるのではないか。本年6月の市議会の本会議でも岡山で実施されている作業療法士との連携も含めて、見えない障害の子どもたちの支援と指導員がどのように対応すればいいかなどの発言があった。岡山発で神奈川や沖縄でも作業療法士との連携で障害のある子どもを受け入れようという動きが進んでいる。

手元に放課後児童クラブの運営指針の解説書の本がある。このなかでも、障害のある子どもも放課後児童クラブを利用する機会が確保されるための適切な配慮及び環境整備を行い可能な限り受け入れに努めるということで運営指針に書かれているので、当然、明石市でもこれから受け入れを進めていくであろうと考えている。

児童クラブの入所者数が増える一方、現場で育成する指導員の数は明石市だけではないが減ってきている。児童クラブに受け入れてもらえる数を確保してもらえるのはありがたいが、現場で育成する指導員がいないと成り立たない事業なので収入面など長く働いてもらえるような労働環境を整えることをお願いしたい。

会長：要望・ご意見ということでいいですね。

委員：子育て支援センターの利用が多くなってきているが、センターは人手不足である。保育士として働く時には自分の子どもを保育所に預ける際に優先してもらえるが、センターの職員として働くときには、そういう優先はない。優遇してほしいという要望がある。

明石市の第2子以降は所得制限もなく保育料無料、中学校卒業まで医療費無料、という状況は小さな子どもを育てる家庭にとってはうれしい施策だと思う。今母親たちがどういう施設を希望しているか聞いてみると、やはり保育料無料で時間が長く、給食がありおやつもある、保育所を希望している人が多い。子育ては親が基本だと思うが、専業主婦は子育てするにあたり助けてくれるところが今までなかった。今、明石市では子育て支援センターがあり充実しているので、良いことだと思う。ただ、小さい時は良いが小学校に上がれば今度は児童館がなく、小学生の居場所がない。

明石は働く方にとっては優しいが専業主婦にとっては厳しい現況であり、国も厳しい。新制度になった時、専業主婦の子どもフルタイムの子ども平等に保育をという方向になって、国も方向が変わったと感じていた。税金の使い方が変わり施策の方向が変わり、専業主婦にとってもうれしいことだと思っていたのに、施策がどんどん変わっていく。国が決めたことは基本的なルールであり、あとは市町村の裁量で現状に合わせて進めるようになっていく。都会と田舎では働き方・生活・子育ての仕方などに違いがある。

明石市の公立幼稚園は2年保育しかない。こども園に変わっていく予定とはいえ、その辺は難しいかもしれない。

新制度が変わったところで保育料の設定が1号と比べると2号は高額である。認定こども園を利用する3歳未満児が年齢経過時、延長保育を利用すれば2号と

保育時間は変わらないため、1号への変更を希望する子が多い。子育てのテレビ番組を見ていると、フルタイムからパートに切り替えて、こども園で保護者も関わる行事に参加できてうれしいという意見があった。子育ても自分でしたいということである。明石は真逆ではないか。

保育士が不足している。潜在保育士と呼ばれる人が来てはくれているが、パートの希望が多く、パートが働く時間は正規職員のいる時間帯。一番来てほしいのは朝7時～9時、夕方4時～7時の時間帯で、学童の指導員も同じだと思う。年収103万の壁を気にしている人もいて、人手不足である。一方で保護者は土曜日の保育や長時間の保育を希望する人が多い。就職予定の学生が気にすることは、保育園の子どもの人数や何人居残りの子どもがいるのか、といったことである。リスクも高くなってきているし、クレームの多い保護者もいて、現場は対応に追われていて厳しい。

第2子以降保育料無料はいつまで続くのか。ちゃんと続くのか。出生率が最低になったと新聞に載っていた。人口は増えているかもしれないが子どもを産む人は減っている今、これだけ増やしていったって、その先を市はどう考えているのか。

会長：最後の部分が質問ということでもいいか。

関係部署：保育料の第2子無料化がいつまで続くかはまだ分からない。だが、第2子無料化により、きっちりした数字は分からないが、明石へ転入してくる子どもが多いことは推測される。今日は見込み量・確保量についてご意見をいただく場となっている。保育士・指導員の質という部分が抜けていると自覚はしている。ここに表れない、見えない質については皆さんと一緒に考えていきたいテーマだと思っている。

委員：放課後児童クラブについて。ありがたいことに市が2年連続で処遇改善を行い、指導員不足は6名となっている。大きな前進である。そんな中、私が危惧するのは、新たに採用される指導員のほとんどが初めて子どもと関わる方であり、関わり方が分からないということ。特に高学年は難しく、「子どもにやっつけられてしまう」という言葉も出ている。どう対処していくのがいいのか、指導員の悩みに答えるにはどのような取り組みや研修を進めていくべきか、市の方とも協議している。

もう一つ危惧することは、量的な見直しをしなければいけないクラブが多く、13か所出てきている。何が原因かという明石が子育てのしやすいまちであることが、予想を大きく上回ってきた理由ではないか。

学校での勤務経験があるので学校の立場も分かるのだが、明石では1年生が30人学級になり、教室が複数必要になってきている。さらに知的・情緒・弱視など障害児もここ数年どんどん増えていて、数年前に比べると教室が何倍も必要。余裕教室がないかと問われてもなかなか、はいどうぞとは言えない。谷八木小学校では運動場の隅に施設を作ることになっているが、そういったところがどんどん増える。増えていけば、なんとか確保された指導員がまた不足する、という状況が繰り返されている。

どうすればいいのか分からず、現場も悩んでいる。

会長：児童クラブの課題を整理していただいたということですね。

委員：3点述べたい。

保育人員の募集、居場所の確保について話し合われているが、その一つとし

て。

高齢者・障害者施設でもケアマネや指導員が足りない状況である。平成30年度からいわゆる共生型のサービスが始まる。障害者の日中サービスをしているところが、放課後児童デイサービスを行い学童とも連携するシステムができたり、介護保険をやっているところも学童保育に参入できるようになる。

富山型事業所では高齢者と児童と一緒に過ごせる場所がある。北海道ではそこに障害者も一緒に過ごす、複合型のサービス提供がある。みんなと一緒に過ごしていくという点からみると良い施策だが、反面、専門職が不足してくるのでこれを補っていかうという発想がある。

共生型のサービスへの対応を、子育て支援計画の中にどう位置づけていくのか。サービスの数や対応をどうしていくか、といったことが、計画に入ってきても良いのではないか。

訪問療育についても、数値目標が挙がってきてはいるが、例えば保育所訪問はどれぐらいの数を目標に設定しているのか。障害だけではなく療育の分野でも数値目標を挙げていった方が、対話がしやすいと思う。

2点目に、資料の「明石のこどもをめぐる状況」の中で、今年度の国の調査では子どもの生活困窮率は6人に1人となっているが、明石ではどのようになっているのか。状況を説明してほしい。

3点目に、子ども食堂の推移は今後の計画に入ってくるのか。

会 長：1つ目は共生型サービスの構想、訪問型と療育と一緒にセットということに関して、2つ目は明石の子どもの困窮の状況、3つ目は子ども食堂の取り組みに関してということで、答えられる方はいますか。

関係部署：本計画は、中間年見直しの年であり、資料の通りの位置づけとなっている。ここに挙がっていない項目については意見をしっかりお聞きし、次回の計画で検討材料とし、どう位置づけしていくかも検討できたらと思っている。

関係部署：子どもの生活困窮の実態について、困窮率等の実態調査は現在明石市では行っていない。生活保護率等のデータはあるが、困窮率等の具体的な数値は分かっていない。

関係部署：子ども食堂については、食事の提供だけではなく遊びや学習の場、地域とのつながりの場をとということで社協と協力して進めている。昨年度は11か所で実施し、今年度も数か所新しく設置している。今後、子ども食堂のことも計画に入れるかについては検討課題だと認識している。

委 員：資料4の病児病後児保育事業について。実績が少なく大幅な下方修正の見込みで、2200人から900人へと半数以下になっている。どういう理由でこれだけ下がったのか。

関係部署：これまでは回復期の子を預かる施設しかなかったが、新たに発症中の子を預かる施設ができた。これにより利用量は増える見込みだったが実績を見ても、定員に余裕がある状況なので、実績にあわせて下方修正している。

委 員：明石は病児保育が2つと、神戸市等と比べて多くないが、利用が少ない。親が病児保育を利用しようと思えば負担金がかかるので躊躇しているのではないかと思ったりもする。

委 員：子育てをした親として、病児保育について。

場所が遠い。私の家からも車で行かないといけない。朝霧病院と、もう一か所

についても行きにくかった。もちろん子どもの病気の時には休めたらいいが、いつもそうとはいかない。利用料もあるが、場所が行きにくいので利用できずにいる。

そういったこともあるので、数字だけで判断するのはどうか。

会 長：ご意見ということで。

委 員：私は子ども会から来ています。子ども会というのは地域でボランティアでや
てるのだが、我々だけでなく民生委員もだが、年齢が上がってしまい、下が育た
ないというのが現状。

市や国が子どもを見るので親は仕事をしなさい、という施策なので、地域には
お年寄りしか残っていない。地域を見てくれる存在が育たない。子ども会も民生
委員も自治会もそうだが、高齢者が活動している場合が多い。もっと地域を活性
化させるよう市で考えてほしい。

会 長：強い要望ということで考慮に入れてもらえたら。

委 員：ADHDなどの子どもが増えていることをカウントせずに数だけ集めようとす
ると質の問題が学童でも出てくる。保育所ではADHDなどを意識しているが、
学童で配慮されているか心配である。

市の行政としての施策で人口を増やすということは一定の成果を収めて成功し
ていると思う。市の行政の攻撃のマネジメントは成功しているが、守りのマネジ
メントは追いついていない印象。これは行政の責任ではなく我々の責任がこれ
から出てくる。パッチワークのように補助金をつけたり、研修をやったりという
ことではなくこれからの明石は我々レベルで質を行政に求めていく姿勢を強くし
ていかないとなかなか質が上がってこない。今、明石は学童も保育も質に問題が
出てきている。行政だけではなく、議員の先生にもその視点を持ってもらいた
い。チェック機能を持たれている議員の先生にはパッチワークのように貼ってい
く使い方だけではなく、明石市の豊かな子育てがどう平行して実現できているの
かということをしつこく求めていってもらうためには、一般の市民が強烈な興味
を持っているというか、本当に豊かな子育て環境があるのかどうかという視点で
我々の方に問われていて、その背景が色濃くあれば、トップも行政の現場も変わ
る。今ほど我々のスタンスが問われている時はないと思っている。

委 員：現行計画では市立幼稚園の認定こども園化による3歳児保育の実施とあるが、
見直し案では出てきていないので、どうなっているのか。

市立幼稚園では特別支援が必要な子どもへの研修などが充実していて、就学に向
けても小学校としっかり連携をとっているところで、こういう体制をこれからも継
続していきたいと思っている。

目の前の子どもたちの安全・健全な育成・幸せが一番大事であるので、そのあた
りを大切にしていきたいと日頃思っているところをずっと継続していけるように就
学前教育の適切な見直しをこれからもよろしくお願ひしたい。

会 長：要望ということですね。

委 員：ここ7年で幼稚園の子どもは300人減り、保育所は1600人増加している
ので、保育所を作らないといけないのは分かるが、幼稚園は何もしていない。計画
では明石市は認定こども園化に力を入れていく予定だったが、今は保育所に計画が
変わってしまった。運営する側や親にとっては計画がどうなっていくのかが大きい。
いつまで無料化が続くのかなどの先の見通しは親にとっても大きな問題。少子高齢

化の世の中なので、数の確保と政策の量の見込みについて、きっちりと情報を開示していただき進めていくのがいいと思う。

何も手をつけていない幼稚園を本当にこども園にするのか、しっかりとした計画を教えてもらいたい。

関係部署：昨年3月に就学前教育保育施設再構築基本計画を策定し、平成28年度から実行に移そうとしていたが待機児童の解消を最優先に行っていく必要があるだろうということになった。再構築の計画では、中学校区に1つの市立認定子ども園を整備することや幼稚園や保育所の統廃合・民営化を定めていたが変わってしまったわけではない。待機児童対策を最優先に行っている。今年度も1200人の受け皿を整備するといったこと、昨年度も幼稚園内での分園の設置、公立の保育所での増設、民間の保育園の新設、等を行い、この基本計画を策定した時と状況はかなり変わっている。市としては待機児童対策の状況を十分に踏まえながら幼稚園の余裕教室の状況、就学前児童数の推移などを注視し、施設の再構築について慎重に検討を進めていきたい。決して計画がなくなったりしたわけではない。今のところは保留している状況。今後、このあたりを十分に精査して、どのように実施していくか検討していきたい。

委員：見直し案のほとんどが私立の認定こども園化になっているが、公立の幼稚園の3歳児保育は考えられていないということなんですか。

関係部署：3歳児保育については公立の認定こども園化を進める中で対応していきたいということ再構築の基本計画で謳っている。市の方針としては現状の幼稚園で3歳児保育を実施していくというよりは、認定こども園化を図る中で3歳児保育についても実施していくという考えで変わっていない。ただ、認定こども園化を実施する計画が今のところ待機児童対策を踏まえながらやっていきたいということで、今回の見直しでは消えている。平成31年度までの記載をやめただけで平成32年度以降の取り組みをやめたわけではないので、待機児童対策を十分に踏まえながら計画を練っていきたい。

委員：幼稚園の3歳児保育を実行するのと認定こども園化のバランスの問題を検証して計画を変更されているんでしょうけれども、公立の認定こども園化がどういうイメージで絵を描こうとしているのか、わかりにくかったので、もう一度聞きたい。

関係部署：子どもの数の推移をみながら、中学校区に一つの認定こども園というのを幼稚園の統廃合も含めて考えていこうというのが基本計画のなかに謳っている内容。それを具体的に実行していこうということだったが、待機児童対策を優先にということで明石市内の状況が変わってきているので市としても十分に精査した上で、こういった形で実行していくか詰めていきたい。

委員：民間の保育所の新設はすごいピッチで進んでいる。分園も解消のために進んでいて分かりやすい。公立の認定こども園化のスピード感はギャップがあるように感じて見えていない。見える形で話して欲しい。

関係部署：来年どうするかというあたりの具体的な計画は精査できていない。私立の認定こども園も新設されているので3歳児保育をどういった形で実施していくのかも含めて施設の配置をどうするかというあたりを今年度から考えていかなければならない。今年度、実行計画を立てていくという検討を進めているところではあるが具体的に申し上げるところまで至っていない。

委員：3歳児保育は明らかにニーズがあり、公立の幼稚園で施設はあるし、人材も民

間より確保しやすいのになぜすぐに実施して、その声に答えようとしないのか。

関係部署：3歳児保育のニーズはアンケートでも高かった。働いていない、自宅で保育をしている方に対して全園で3歳児保育を実施すると人的にも財政的にも非常に負担が大きい。全国的にも、明石市でも、まずは家庭で保育ができない方に対しての施設を優先している。3歳児保育については幼稚園の全てにすぐに認定こども園化せずに3歳児保育を入れれば一番理想的だと思う。ただ、幼稚園によっては園児が少ないところ、空いている部屋があるところもあり、そういうのを考えながら、保育の必要な方を優先して幼稚園内に分園を入れていったり、施設の配置の形や財政の面・人的な面も考えて保留にしているのが現状。平成31年度までに認定こども園で3歳児保育を入れる計画はないということなのでこの中には入れておりませんが、これ以降そういう動きに市も方向をとっていきたいと考えているので平成32年度以降の計画にはきっと出させていただけると思っている。

委員：今、子育てというのはフルタイムで働いている人ばかりではない。一定数は幼稚園教育を望んでいる方がいて、色々な子育てを認める明石市であれば、それに対する体制を整えなければならないと思う。平成32年度までは保育所の方を優先して、幼稚園型の方は辛抱しておいてください、お金は限られているんだから、そこは抜本的にお金ができたらで、平成32年度まではとにかくこの計画だというのが市のスタンスだということでしょうか。

関係部署：平成31年度までは今の中の計画ではそういう形で進んでいくということになっている。

会長：時間がなくなってきたので、とりあえず先に、見直し案の計画の数字に関して同意していただけるということでしょうか。数字に関してです。

委員：今の数字だと計画的にまずいところが出てくるのではないかと思います。

公立の幼稚園を民営化するなどして、3歳児を入れてしまったら、この数はもう少し緩和できるのではないかと。

関係部署：今回、中間年の見直しということで現時点ではこのような数字を案として考えている。ただ、昨年度も保育所の2号3号について計画を変更するというところで2度ほどこの会議でも報告させていただいて修正を行っている。今、議論になっているところも現時点での事務局の案であって、見直しをしたとして、来年度、事情が変われば改めて1号と2号、3号というあたりを見直すということもあるのかなと思う。

さきほども質問があった、施設の再構築というあたりも、当然この会議の方にも計画がある程度進んだ段階でご報告させてもらって、議論いただき、数字の変更が必要となれば、そこでまた見直しということは可能だと思っている。この中間見直しで見直した数字がずっとこのままでないといけないということはないと思っている。昨年度、2号3号で数字を見直しているの、そういった機会をまた持たれるのかなと思うので、その時に変わればまた変更ということはできる。みなさんからご意見があった時には現状を踏まえて見直すということは可能だと思っている。

会長：今日の強い意見で、3歳児保育の枠を広げたら計画の数字も変わってくるのではないかとすることは伝わっているので、残りの平成30年度・平成31年度の間でも、もし仮に3歳児保育という我々の意見が考慮されるとなれば、この会議で数字の見直しの提示がなされる可能性があるという理解でよろしいですね。

関係部署：そのように考えている。今日初めてこの案をみなさまにご覧いただいたので、

次回は10月か11月ぐらいのみなさまの任期が満了になる前にもう一度会議をお願いできたらと思っている。その時に改めて、この案をもう一度ご覧いただきたい。その間に、今日いただいたご意見を踏まえて、この案を修正する必要があるれば修正をした上で会長・副会長とも相談させていただいて、次期会議で報告したいと思っている。

委員：認定こども園を設置することについてかなり時間をとって、この場で話しをしたと思う。今年で設立して2年目に入っているが認定こども園の状況がこの会議で一度も出されていないので、どういう風に進んでいるのか気になっている。本当に子どもにとって質の高いものになっているかどうか。そういったことを踏まえてこれから認定こども園を設置するかどうか、進めていくべきか、ということを決断して欲しい。私立の方ではどんどん進んでいるわけですし、そういったこと、よろしくお願いします。

4 その他

(1)事務局より「第52回 全国学童保育研究集会」のリーフレットを各委員・会議出席者に配付

委員：11月4日と5日に、第52回 全国学童保育研究集会がある。17年ぶりに兵庫県で開催されることが決定。厚生労働省の後援もいただいている。1日目は歓迎行事や近藤直子先生による記念講演、2日目は6会場で各テーマに分かれての学習があるので是非参加いただきたい。

(2)事務局からの連絡事項

5 閉会